



横浜港を支えた栄区の特産品 「パイスケ物語」



300

(大切に持っていて欲しいためにナンバーを入れました)

1

わたしは だれ？

その名は「パイスケ」

私は天秤棒で前後にかつがれた「かご」です。横浜の港で石炭の積み下ろしの荷役作業や土木作業に使われました。



かごにひもを通すため、底の四隅に穴があいている
「四つ目」が作られました。



わたしの名づけ親は？

外国人で英語です

**英語の「バスケット」が語源と言
われています。**

**横浜の港で日本人が肩にかっ
いで運搬する姿を外国人が「パ
イスケ」「パイスケ」と言っている
ように聞こえたからです。**

**昔ながらの竹かごですが、港と
つながり、その影響を受けた地
方は「パイスケ」とか「バイスケ」
と呼ばれました。**



わたしの故郷は？

横浜市栄区上郷

栄区上郷には材料である篠竹が豊富に生えておりました。その年に出た真直ぐな篠竹を10月から3月頃までに採取します。竹割り器で太さに応じて裂き、水に濡らして編みます。

上郷を中心に公田や桂町の約40軒ほどの家で作られました。私は、農閑期のよい副業となり、生活を助けました。



大きさをそろえて作る。

上郷の地で取りまとめをしていた角田家では、
最盛期（昭和12～17年頃）には1ヶ月に
約200個を出荷していました。

**明治末期から大正、昭和にか
けての約 60 年間、地場産業と
して栄えたという事です。**



私はこの道で港まで・・・

「横浜売り」の道

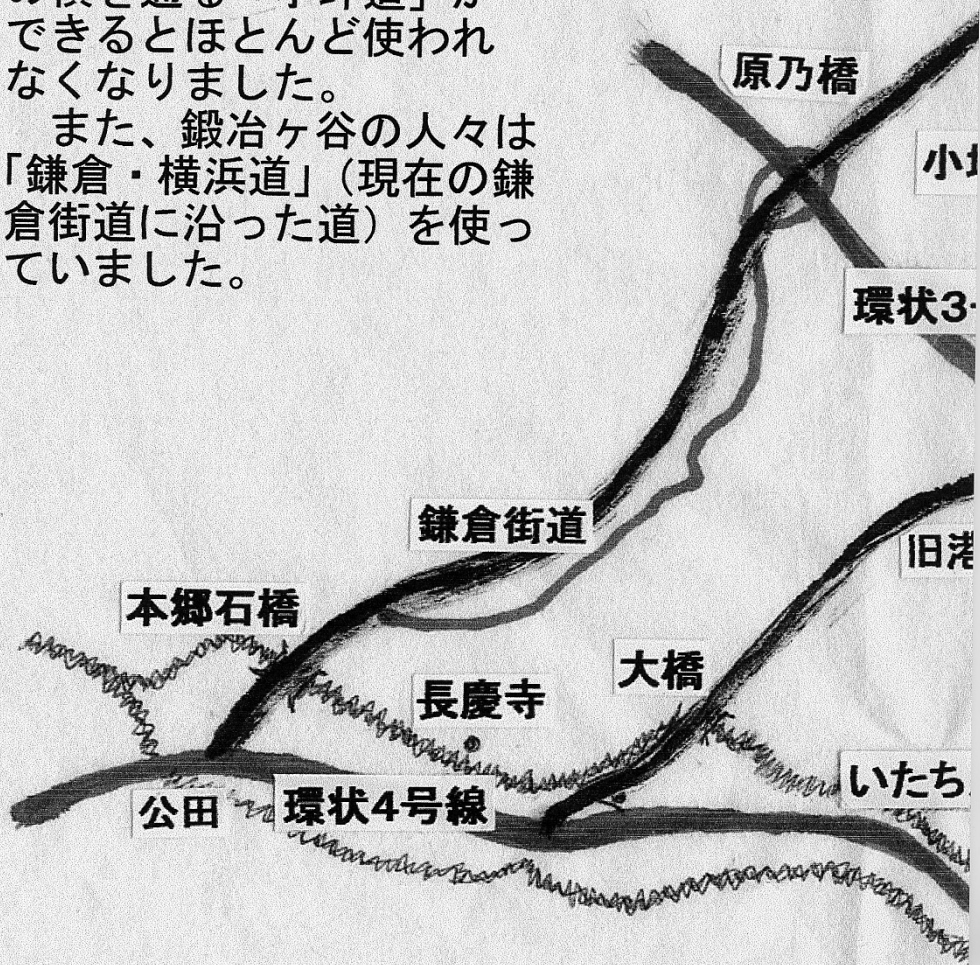
横浜開港を機に、栄区は港とつながり、物流が盛んになります。これらの道はすべて村人たちによって作られ、また、手入れも村民総出で行い安全な道をめざしました。

「横浜売り」という生活道として、村で出来る炭や薪・野菜と共に私（パイスケ）も港に運ばれました。

時代とともに変わる道

「江戸道」はおもに上郷・中野の人々が使っていた道ですが、陰しい山道でした。明治の初めに旧港南台高校の横を通る「小坪道」ができるとほとんど使われなくなりました。

また、鍛冶ヶ谷の人々は「鎌倉・横浜道」（現在の鎌倉街道に沿った道）を使っていました。



至横浜

高橋

春日神社

新橋

清水橋

鎌倉・横浜道

小坪道

横横道路

港南台第三小学校

小坪小学校

港南台駅

環状3号線

江戸道

旧港南台高校

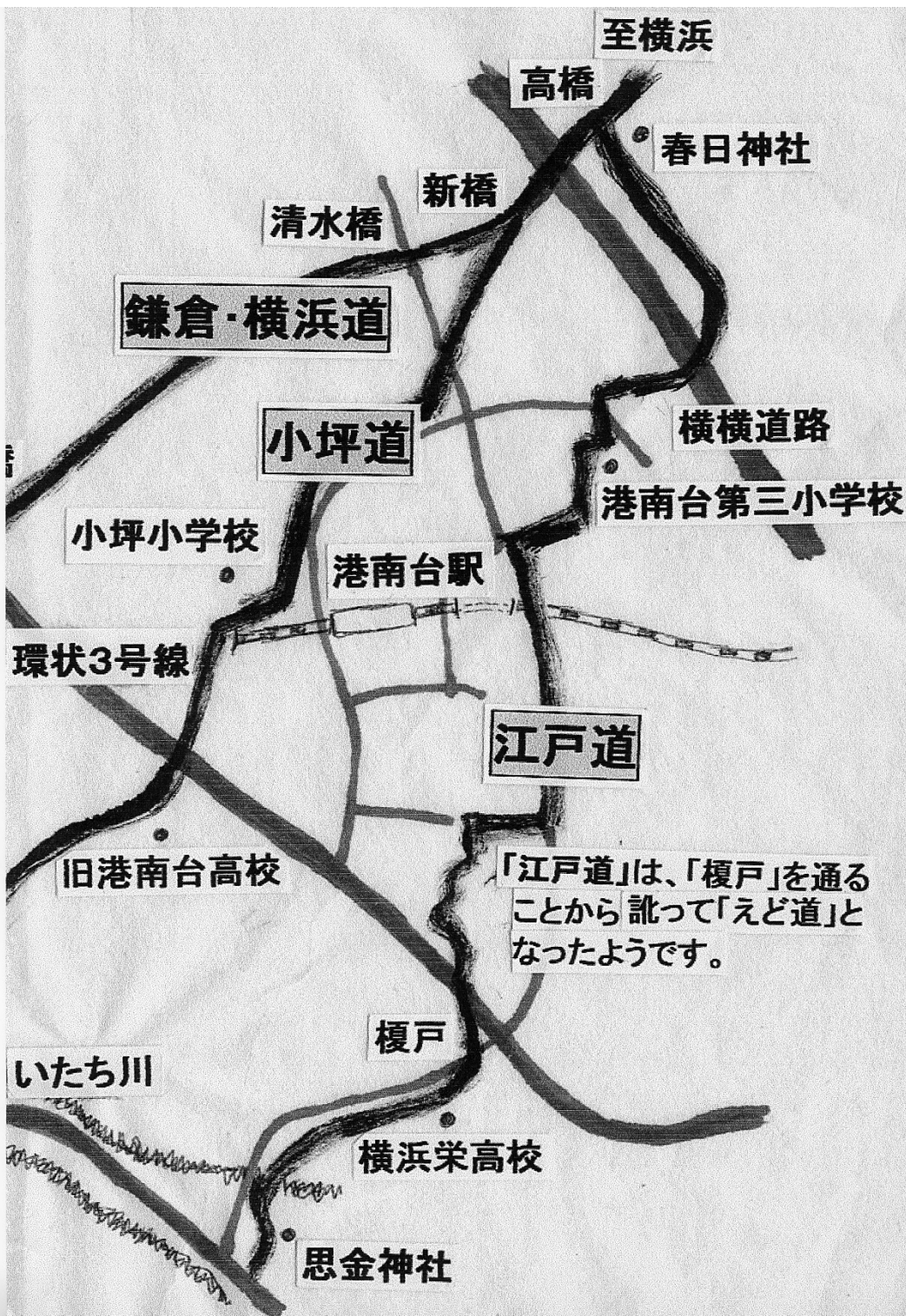
「江戸道」は、「榎戸」を通ることから訛って「えど道」となったようです。

榎戸

いたち川

横浜栄高校

思金神社





ひっぱりだこの有名人

その①

横浜の港建設と 埋め立て工事

野っ原だった横浜村では港の工事がはじまります。神奈川奉行所、運上所、日本人町、外国人町の建設、橋、横浜道の敷設。太田屋新田、横浜新田等の新田の埋め立て事業もありました。文明開化の名のとおり、ガス灯、電気、水道、病院、製鉄所・・・土木工事に私（パイスケ）が大活躍。



ひっぱりだこの有名人

その②

帆船から蒸気船へ 貿易の隆盛

**「泰平のねむりをさます上喜
撰（じょうきせん 上等のお茶）たっ
た四はいで夜も眠れず」**

**1853年ペリーが率いる黒
船は帆船2隻と蒸気帆船2隻
でした。ちょうど帆船から蒸気**

船へ移り変わる時代で、その蒸気船の燃料は石炭でした。

開港にともなって貿易がはじまります。生糸・お茶・水産物等を輸出し、砂糖・毛織物・綿織物等を輸入し、物流が活発になりました。

石炭、まき、水、食料、輸出品、輸入品・・・これらは、天秤棒で私(パイスケ)や桶に入れて、運ばれました。



ひっぱいだこの有名人

その③

横浜と東京を結ぶ 汽車の開通

「♪汽笛 一声 新橋を・・・」

1872年（明治5年） 横浜と新橋間に鉄道が開通します。線路の敷設にあたり土木工事が行われました。

日本の土工機械史には明治3～5年 鉄道建設工事で高輪海

岸（現在の品川駅付近）で海上築堤し敷設。ハツ山・御殿山を土取場として、パイスケ、モッコ、牛馬車を使用しました・・・との記述がありました。

横浜（現在の桜木町）、神奈川、鶴見、川崎、品川、新橋の間を53分で走り、明治13年には年間200万人もの利用がありました。

石炭運搬はもちろんのこと、貨物の輸送量も増え、その積み下ろしに私（パイスケ）が使われました。



わたしを忘れないで！

プラスチックの 出現にぱったい

私（パイスケ）のかごも用途別に变化していき、魚貝類、野菜、堆肥やおがくず、ボルトやナットの金属類など多種にわたいその需要に応じてきました。

しかし、戦後の機械化と昭和40年頃、プラスチックが出回るとぱったいと需要が減り、私は忘れられてしまいました。



再び、栄区の特産品に・・・

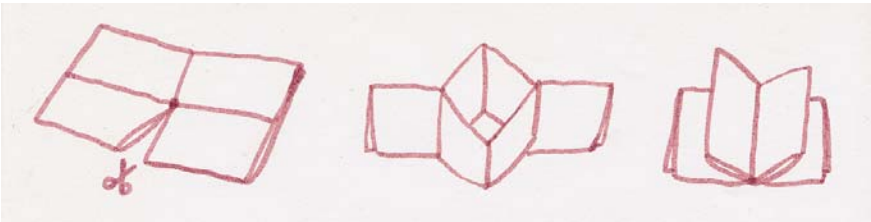
篠竹の素材感と かごの素朴感

私（パイスケ）はかご編みの基本形で、機能美を備えています。長年にわたり作られ、使われてきた栄区の宝物です。

上郷の地にある雑木林ファンクラブでは私を展示し、製作を試みています。現代の暮らしに私（パイスケ）をおしゃれに使ってみませんか。

2010年10月23日
発行 横浜自然観察の森 友の会
雑木林ファンクラブ
参考資料
「パイスケと江戸道・小坪道」六人会
製作とお話 角田正輝さん

冊子の作り方



A 折り目をつける。

(8等分に表・裏ともしっかりとつける)

B 切り目を入れる。

(半分に折り、輪の方から印まではさみを入れる)

C 冊子にする。

(びょうぶたたみにし、切り目を縦半分に折る)

裏を見る時は、ひっくり返して冊子を作り直します。